
東方拳銃伝

超絶暇人

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

東方拳銃伝

【Nコード】

N3152BA

【作者名】

超絶暇人

【あらすじ】

俺は名前は不知火 煌矢

19歳

ある日、バイトの帰り道を歩いていたら…
いつの間にか幻想入り！

何だこりゃ？な展開だけど…

手に入れた能力で、戦い：

この幻想郷を制覇！…いや辞めよう…：

兎に角…銃を持って幻想郷で戦いの日々ってところだろ…

東方キャラ崩壊あり！

無理な人は戻った方が良いでしょう！

一話 知らぬ間に幻想入り（前書き）

超絶暇人です！

また書きちゃった……

こんなに書いてどうすんの……僕……

まあ楽しいからおk！

ではどうぞ。

一話 知らぬ間に幻想入り

東方拳銃伝…

第一話…

俺は 煌矢…
不知火 煌矢…
しらぬい こうや

一人暮らしのフリーター

歳は19歳

そんな事より、今の俺の状況を聞いてくれ…

俺はさっきまでバイトの帰り道を歩いて居た筈だ…

ところがどうだ…

今俺は東方の世界に居るでは無いか…

これは夢か？夢なら覚めないで…
いや、覚めてほしいが…

ああ！ややこしい！

いいや…自分の顔抓ればわかる…

俺は思いつ切り自分の顔を抓った。

ギュウウウ…

「痛い痛い痛い痛い！！！」

おk…夢じゃ無いと…

じゃあ今俺が立っている場所は東方の世界と言う事な…

何故わかるか？

それは真上辺りにリリーが飛んでいたからだ。

間違い無い…あれはリリーだった…

さてと…どうしようか？

このまま居ても妖怪に食われるだけだし…

何故だと思っ…？

それは俺の周りに獣の妖怪が群れているからだ…

何でこうなるかな…

すると俺の脳内にある言葉が現れた。

“触れた物を本物にする程度有能力”

“光と闇を操る程度有能力”

ん…なるほど。

俺の能力な…

なら丁度いい、護身用にエアガンと祭りガンを持っていたんだ…

俺は肩かけバッグからそつとエアガンと祭りガンを取り出した。

エアガンの名前はAUTOMAG III

祭りガンの名前はBIG BANG-R3

これが本物になるなら…撃てる…

光と闇を操れるなら…弾丸に出来る…

俺は持つエアガン…いや、銃を構え、力を送り込んだ。

するとBIG BANG-R3のシリンダーが光った。

見てみると、光が弾として入っている。

どうやら成功したようだ。

よし…引き金を引いて…

弾を撃つ！

俺がBIG BANG-R3とAUTOMAG IIIの引き金を引いた。

すると…

バン バン！

発砲音が鳴り響き、一体の妖怪を撃ち殺した。

それと同時に他の獣妖怪が飛び掛かって来た。

「かかって来い！」

そう言いながら俺は銃を連射する。

撃ち出された弾丸は次々と妖怪を倒していく…

使用している弾は光だから尽きない…

いいねえ、これ最高！

俺は銃から光の弾丸を大量に撃ち、妖怪を全滅にした。

さて、何か死体だらけになったけど…

これからどうする？俺…

とそんな事を考えて居たら…

「あれ？あれはまさか…」

俺の視線の先には、何とあの紅魔館があった！

何だかおもしろくなってきた！かも…

続く

一話 知らぬ間に幻想入り（後書き）

次回は主人公設定で：

いや、拳銃を手に幻想郷はなかなかいい！

自分で言っちゃった：

ではまた次回。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3152ba/>

東方拳銃伝

2012年1月8日03時46分発行